



## 2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月11日

上場会社名 神姫バス株式会社

上場取引所 東

コード番号 9083 URL <https://www.shinkibus.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長尾 真

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 小林 健一

TEL 079-223-1243

四半期報告書提出予定日 2019年11月13日

配当支払開始予定日

2019年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	22,148	1.1	642	82.6	721	64.5	414	85.9
2019年3月期第2四半期	21,903	2.1	351	48.9	438	43.2	223	58.2

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 513百万円 ( %) 2019年3月期第2四半期 218百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	68.86	
2019年3月期第2四半期	37.05	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	57,267	43,325	75.6	7,189.82
2019年3月期	56,638	42,915	75.7	7,121.77

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 43,299百万円 2019年3月期 42,890百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		17.50		17.50	35.00
2020年3月期		17.50			
2020年3月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,300	0.9	2,590	11.3	2,780	8.3	1,840	5.2	305.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	6,172,000 株	2019年3月期	6,172,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2020年3月期2Q	149,696 株	2019年3月期	149,586 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期2Q	6,022,392 株	2019年3月期2Q	6,022,619 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、輸出や生産に海外経済の減速の影響がみられるものの、雇用・所得環境の着実な改善の下、個人消費の拡大により、景気は緩やかな拡大基調にあります。しかしながら、米中の貿易摩擦問題や中国の成長鈍化のほか、地政学的リスクや消費税増税後の消費動向等国内外の経済の不確定要素を受け、先行き不透明な状況となっております。

当社の事業分野におきましても、前年に比べて自然災害が少なく、また、雇用・所得環境の改善により順調に推移しておりますが、日韓関係の悪化による訪日韓国人観光客の減少や原油価格の高騰等、予断を許しません。

このような情勢の中、当社は本年度を開始年度とする中期経営計画を策定し、自動車運送、不動産をコア事業、旅行貸切を成長事業と位置付け、これらの事業に重点を置いた事業展開を図りました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、自動車運送事業の収入が堅調に推移したこと等により、売上高は前年同期比245百万円(1.1%)増の22,148百万円、営業利益は前年同期比290百万円(82.6%)増の642百万円、経常利益は前年同期比282百万円(64.5%)増の721百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比191百万円(85.9%)増の414百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

## ① 自動車運送

当事業部門におきましては、乗務員の確保、労働環境の改善、輸送効率の改善等の諸施策に注力してまいりました。乗合バス部門におきましては、一般路線バスでは堅調な雇用環境による通勤需要の増加や消費税増税前の駆け込み需要もあり、定期券売上が増加いたしました。高速乗合バスは2019年4月「三宮～松江出雲線」を新設したほか、既存路線におきましても増便、一部路線の運賃改定、前年相次いだ自然災害の反動等により増収となりました。郵便物輸送部門は新規受託路線の獲得等により増収となりました。タクシー部門は1稼働当たり収入は増加しましたが、乗務員不足による稼働数が減少したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比426百万円(4.5%)増の9,913百万円、営業損益は事業拡大や乗務員確保のための人件費の増加等がありましたが、前年同期に比べ82百万円(16.3%)改善し、420百万円の営業損失となりました。

## ② 車両物販・整備

車両物販部門におきましては、イベント開催等による自動車販売が好調であったことや大型中古車店との取引拡大、整備部品やオイルの販売において消費税増税前の駆け込み需要があり増収となりました。自動車整備部門におきましても、車検整備台数の増加により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比80百万円(2.0%)増の4,099百万円、営業利益は人件費の減少等により前年同期比46百万円(25.1%)増の231百万円となりました。

## ③ 業務受託

車両管理部門におきましては、新規契約や契約価格の増額改定がありましたが、既存取引先との契約縮小等により減収となりました。経営受託部門は2018年11月に姫路市宿泊型児童館「星の子館」がリニューアルオープンしたことや、自然災害が前年に比べ少なかったことにより屋外施設の利用者が増加しました。介護部門はデイサービス等各サービスが総じて稼働増となり増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比52百万円(3.1%)増の1,717百万円、営業利益は前年同期比15百万円(13.0%)増の139百万円となりました。

## ④ 不動産

賃貸部門におきましては、既存商業施設・オフィスの一部賃料見直しや前期取得物件の賃貸開始があり増収となりました。住宅部門は建売住宅販売戸数は減少したものの、注文住宅の引渡戸数が増加したこと等により増収となりました。建設部門は前年に工場新築工事があった反動により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比58百万円(△2.6%)減の2,164百万円となりましたが、営業利益は前年同期比100百万円(14.5%)増の797百万円となりました。

## ⑤ レジャーサービス

飲食部門、ツタヤFC部門において積極的な出店を行いました。飲食部門は2019年1月「いきなりステーキ姫路駅前店」の事業譲受及び2019年5月FC店「さち福やCAFE相鉄フレッサイン神戸三宮店」等の出店により、またツタヤFC部門は2019年5月「TSUTAYA熊見店」の事業譲受により増収となりました。なお、食品製造販売部門の株式会社富士屋かまぼこは2019年3月に株式譲渡しております。以上の結果、売上高は前年同期比187百万円(△6.1%)減の2,896百万円、営業利益は前年同期比0百万円(△0.4%)減の52百万円となりました。

## ⑥ 旅行貸切

旅行部門におきましては、募集型企画旅行の主力ブランド「バス旅」「真結」や訪日外国人観光客向けツアー、にっぽん丸チャータークルーズ等の集客が好調であり、またゴルフギャラリー輸送の手配受注が増加したことにより増収となりました。貸切バス部門は前年の西日本豪雨災害復興バスの反動減はありましたものの、東京ディズニーリゾート行バスを増便したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比130百万円(6.7%)増の2,095百万円、営業損益は前年同期に比べ74百万円(38.6%)改善し、118百万円の営業損失となりました。

## ⑦ その他

清掃・警備部門におきましては、ホテルや公共施設等の建物清掃・管理業務を新規受注したこと等により増収となりました。農業部門は運営方法、拠点の一部見直しにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比43百万円(△4.3%)減の975百万円、営業利益は農業部門の収支改善等により黒字転換し、1百万円(前年同期は10百万円の営業損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ629百万円増加し、57,267百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加2,055百万円、有価証券及び投資有価証券の時価評価等による増加250百万円、分譲土地建物の増加245百万円、受取手形及び売掛金の減少1,408百万円、有形固定資産の減少406百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ219百万円増加し、13,942百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の増加393百万円、前受金の増加363百万円、未払法人税等の増加137百万円、未払金の減少411百万円、リース債務の減少220百万円、借入金の減少150百万円等であります。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加312百万円、その他有価証券評価差額金の増加127百万円等により、前連結会計年度末に比べ409百万円増加の43,325百万円となり、自己資本比率は75.6%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前連結会計年度末に比べ2,070百万円増加し、8,283百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益713百万円、減価償却費1,351百万円、売上債権の減少額1,408百万円等により3,413百万円の収入(前年同期は2,772百万円の収入)となりました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出805百万円、有形固定資産の取得による支出892百万円、定期預金の払戻による収入820百万円等により899百万円の支出(前年同期は2,424百万円の支出)となりました。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、ファイナンス・リース債務の返済による支出178百万円、長期借入金の返済による支出150百万円等により443百万円の支出(前年同期は522百万円の支出)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年5月15日に公表いたしました内容を下記の通り修正しております。

売上高は、自動車運送事業の乗合バス部門において自然災害による運休等の影響が想定を下回ったことや、一部路線の運賃改定を行ったこと、また不動産業の建設部門における受注増等により前回予想を上回る見込みです。

利益面におきましても、増収に加え人件費の減少等により前回予想を上回る見込みです。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	45,900	2,450	2,640	1,740	288.93
今回修正予想 (B)	46,300	2,590	2,780	1,840	305.53
増減額 (B - A)	400	140	140	100	—
増減率 (%)	0.9	5.7	5.3	5.7	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	45,889	2,326	2,567	1,749	290.55

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,662	9,718
受取手形及び売掛金	4,821	3,413
有価証券	70	35
商品及び製品	496	619
仕掛品	246	190
原材料及び貯蔵品	123	115
分譲土地建物	352	598
その他	712	496
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	14,483	15,183
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,335	26,425
減価償却累計額	△16,642	△16,757
建物及び構築物(純額)	9,692	9,668
機械装置及び工具器具備品	2,901	2,923
減価償却累計額	△2,214	△2,269
機械装置及び工具器具備品(純額)	686	653
車両運搬具	16,788	17,067
減価償却累計額	△13,145	△13,636
車両運搬具(純額)	3,642	3,430
土地	19,190	19,245
リース資産	1,953	1,493
減価償却累計額	△1,053	△796
リース資産(純額)	899	696
建設仮勘定	38	50
有形固定資産合計	34,150	33,744
無形固定資産		
のれん	19	17
その他	393	376
無形固定資産合計	412	393
投資その他の資産		
投資有価証券	4,198	4,483
退職給付に係る資産	1,248	1,272
その他	2,264	2,229
貸倒引当金	△119	△38
投資その他の資産合計	7,591	7,946
固定資産合計	42,154	42,084
資産合計	56,638	57,267

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,185	1,245
1年内返済予定の長期借入金	261	222
リース債務	398	288
未払金	3,119	2,708
未払法人税等	240	378
賞与引当金	987	1,380
過年度雑収計上旅行券引当金	21	21
その他	2,475	2,859
流動負債合計	8,689	9,104
固定負債		
長期借入金	375	263
リース債務	599	488
役員退職慰労引当金	60	43
退職給付に係る負債	871	890
その他	3,126	3,150
固定負債合計	5,033	4,837
負債合計	13,723	13,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	36,361	36,674
自己株式	△448	△448
株主資本合計	41,288	41,600
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,449	1,576
為替換算調整勘定	—	△2
退職給付に係る調整累計額	151	123
その他の包括利益累計額合計	1,601	1,698
非支配株主持分	24	25
純資産合計	42,915	43,325
負債純資産合計	56,638	57,267

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	21,903	22,148
売上原価	16,259	16,358
売上総利益	5,643	5,790
販売費及び一般管理費	5,291	5,147
営業利益	351	642
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	46	36
持分法による投資利益	7	4
その他	68	68
営業外収益合計	129	116
営業外費用		
支払利息	1	1
固定資産除却損	22	14
関係会社貸倒引当金繰入額	14	7
その他	4	16
営業外費用合計	43	38
経常利益	438	721
特別利益		
車両等購入補助金	57	15
負ののれん発生益	—	10
特別利益合計	57	25
特別損失		
固定資産圧縮損	55	14
関係会社株式評価損	—	18
その他	1	—
特別損失合計	56	33
税金等調整前四半期純利益	439	713
法人税等	216	297
四半期純利益	223	415
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	223	414

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	223	415
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△417	129
退職給付に係る調整額	△24	△29
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△2
その他の包括利益合計	△442	98
四半期包括利益	△218	513
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△219	512
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	439	713
減価償却費	1,377	1,351
のれん償却額	—	2
負ののれん発生益	—	△10
賞与引当金の増減額 (△は減少)	331	393
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△82	△84
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	10	15
受取利息及び受取配当金	△53	△43
支払利息	1	1
持分法による投資損益 (△は益)	△7	△4
有形固定資産売却損益 (△は益)	△3	△3
有形固定資産除却損	12	2
固定資産圧縮損	55	14
関係会社株式評価損	—	18
売上債権の増減額 (△は増加)	1,173	1,408
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△91	△285
未払金の増減額 (△は減少)	46	△482
その他	33	474
小計	3,242	3,480
利息及び配当金の受取額	53	43
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△522	△109
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,772	3,413
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△2,805	△805
定期預金の払戻による収入	1,810	820
有形固定資産の取得による支出	△1,172	△892
有形固定資産の売却による収入	4	6
その他	△261	△28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,424	△899
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△152	△150
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△252	△178
配当金の支払額	△120	△105
非支配株主への配当金の支払額	△0	△0
その他	4	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△522	△443
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△174	2,070
現金及び現金同等物の期首残高	5,615	6,212
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,441	8,283

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	9,384	2,984	1,655	2,064	3,083	1,914	21,085	817	21,903
セグメント間の内部 売上高又は振替高	103	1,034	10	158	—	49	1,356	201	1,558
計	9,487	4,019	1,665	2,222	3,083	1,964	22,442	1,019	23,461
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△503	184	123	696	52	△192	362	△10	351

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	362
「その他」の区分の損失(△)	△10
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	351

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	9,807	3,088	1,707	1,873	2,896	2,014	21,386	761	22,148
セグメント間の内部 売上高又は振替高	106	1,010	10	291	—	80	1,500	213	1,713
計	9,913	4,099	1,717	2,164	2,896	2,095	22,886	975	23,862
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△420	231	139	797	52	△118	681	1	683

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	681
「その他」の区分の利益	1
セグメント間取引消去	△40
四半期連結損益計算書の営業利益	642